

【明治三陸地震津波】

明治29（1896）年6月15日午後8時過ぎ、三陸地方を大津波が襲いました。この津波により現在の釜石市に当たる区域では6,477人が死亡・行方不明、海辺の家々や漁具漁船のほとんどが失われるという大被害を受けました。

この日は旧暦の端午の節句（5月5日）でお祝いをしていた家が多く、また地震が最大震度2とさほど強くなかったため、津波が間近に来るまで気づくことができず、多くの命が奪われました。



救出の様子（釜石町）風俗画報より



津波の惨状 崩れ落ちた家屋

発生日時：1896年6月15日 19時32分

発生場所：岩手県東沖・日本海溝付近

規模：マグニチュード8.5

最大震度：2～3

最大波高：38.2m（三陸町綾里）

釜石で観測された波高

釜石町釜石 7.4m

鵜住居村両石 13.0m

唐丹村小白浜 15.0m

町村部落名		津波前の人口	死者	重傷	軽傷
釜石町	釜石	5,687	2,907	68	243
	平田	1,299	858	16	292
鵜住居村	両石	939	790	12	13
	鵜住居	712	174	9	20
	箱崎	930	15	0	2
	片岸	563	49	3	8
唐丹村	小白浜	629	475	18	6
	本郷	873	769	6	3
	花露辺	294	217	0	13
	片岸	156	98	9	9
	荒川	260	115	2	9
	大石	323	10	0	0
合計		12,665	6,477	143	618

【被害状況】 岩手県海嘯被害戸数及人口調べ表
（明治29年7月10日調べより）